○ 令和元年度 学校教育自己診断集計結果

評価ジャンル	生徒	1	2	3	4	肯定	否定	肯定	否定	保護者	1	2	3	4	肯定	否定	肯定	否定	教員	1	2	3	4	肯定	否定	肯定	否定	結果と考察
学校生活	1 学校へ行くのが楽しい	34	36	14	3	81.6%	28.4%	80.9%	22.5%	1 子どもは学校へ行くのを楽しみにしている。	34	29	8	0	86.3%	9.1%	91.8%	5.3%	2 教員は行事や特別活動が魅力あるものとなるよう、工夫、改善を行っている。	19	25	0	2	90.9%	9.1%	85.2%	14.8%	・前回よりも肯定率が生徒は微増、上がっている。保護者は6%以上向上しており、教員は約10%さがっている。行事の内容が充実し、地域等にも周知されて来校者も増加した。盛況な様子が保護者の数値にあらわれているのではないか。反面、教員の肯定率の低さが気にかかる。
	14 学校行事は楽しみである	46	26	10	4	82.8%	17.2%			21 体育祭や校外学習・宿泊学習などの学校行事は、よく工夫されている。	43	28	1	0	97.3%	1.4%			7 生徒会の運営と活動が自主的にできるよう、適切な支援が行われている。	17	18	6	3	79.5%	20.5%			
	15 生徒会・委員会活動で学校がよくなっていると思う。	24	44	12	6	78.2%	21.8%																					
授業	2授業はわかりやすい	29	47	10	1	87.4%	12.6%	80.5%	19.5%	6 子どもは、授業がわかりやすいといっている。	23	37	10	0	82.2%	13.7%	82.2%	13.7%	1 教員はわかりやすい授業となるように授業改善や工夫を行っている。	11	29	3	1	90.0%	10.0%	83.0%	20.0%	・生徒、保護者、教員とも向上している。ジャンルごとの肯定率で見ると数パーセントの伸びでるが、生徒の「先生は～工夫している」の項目では10%の伸びが見られる。教員のジャンルごとの肯定率は上がっているが、「コンピュータの～活用されている」の項目は10%近く減少している。個々の教員の反省としてなのか、教科の特性としてなのか、または設備面としてとらえた上での回答なのかを検討する必要がある。自立活動に関しては昨年度、大きく向上しており、今年度は4パーセントほどの伸びである。教育課程での位置付け、理解が深まりつつあり、安定ととらえるも、支援学校としてはさらなる数値の向上を目標としたいところである。
	3 授業中に自分の考えを伝える機会が多い。発表することが多い。	23	31	26	7	62.1%	37.9%												4 自立活動の指導は生徒が興味を持って主体的に取り組めるよう工夫している。	10	22	9	3	72.7%	27.3%			
	4 先生は授業の内容や教え方など工夫している。	44	36	5	2	92.0%	8.0%												6 コンピュータ等のICT機器が、各教科の授業などで活用されている。	19	19	5	1	86.3%	22.7%			
進路指導	5 将来の進路や生き方について考える機会がある。	44	35	6	2	90.8%	9.2%	89.3%	10.7%	13 学校は将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている。	41	30	0	0	97.3%	0.0%	97.3%	0.0%	12 生徒が将来の進路や生き方について考える機会を多く設けている。	27	15	1	1	95.4%	5.7%	96.9%	3.4%	・3属性共に高い肯定率となっており、生徒では数パーセントの減少が見られるものの、本校の大きな強みであることが引き続き確認されたと見る。 ・保護者においては特に肯定率が高い。進路からの日々の情報提供とともに、3年間継続した進路指導計画、丁寧な懇談等での対応の成果であると考えられる。 ・教員においては3項目とも95%を超える非常に高い肯定率となっており、本校の進路指導について自信を持っており、強みと認識していることがうかがえる。生徒の肯定率の減少が気になるところではあるが、生徒と教員との肯定率の差は数パーセントであるが縮まっている。
	6 学校は進路についての情報を知らせてくれる。	50	30	3	3	92.0%	8.0%												13 興味・関心、適正に応じて進路選択が出来るよう、きめ細かい指導を行っている。	25	18	1	0	97.7%	2.3%			
	7 先生以外の外部の方から、進路に関する話をきくのはためになったと思う。	44	30	9	4	85.1%	14.9%												14 進路指導において、福祉・労働機関等の関係諸機関と緊密な連携が出来ている。	28	13	3	0	97.7%	2.3%			
教員について	8 担任の先生に、困っていることや悩みを相談できる。	29	33	13	11	59.8%	40.2%	79.1%	22.5%	5 教職員は、子どもの学習状況や努力を適切・公平に評価している。	38	32	2	0	95.9%	2.7%	89.5%	6.8%	22 教職員の服務規律への自覚が高い。	16	19	6	3	79.5%	20.5%	89.7%	10.6%	・生徒の項目8の肯定率の減少が気になるところであるが、他の項目は向上している。 ・教員の「4この職場においては教職員の服務規律への自覚が高い。」の項目について昨年度と比べると5パーセント肯定率が向上しているものの、他項目より数値が大幅に低くなっている。なぜ、このような結果が出たのかを確認し、再度共有を図る必要性がある。
	9 担任の先生以外に、気軽に困っていることや悩みを話せる。	27	26	22	11	60.9%	39.1%			18 教職員は、いじめなど子どもが困っていることがあれば、真剣に応じてくれる。	33	26	9	0	80.8%	12.3%			10 教職員は生徒の意見をよく聞いている。	19	21	3	1	93.0%	7.0%			
	10 先生はいじめなどについて困っていることがあれば、真剣に対応してくれる。	41	33	8	5	88.5%	11.5%			24 教職員は、子どもの障がいを理解している。	37	30	4	0	91.8%	5.5%			11 相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員にも相談することが出来る。	23	17	3	1	93.2%	7.8%			
	18 先生は、自分のことをよく理解してくれている。	40	36	5	6	87.4%	22.6%			26 教職員は、すべての教育活動において、子どもの人権を尊重する姿勢で指導に当たっている。	40	26	4	0	90.4%	5.5%			8 教員は生徒の人権を尊重し、日常の教育活動を行っている。	19	24	1	0	93.0%	7.0%			
	19 先生は、みんなの意見を聞いてくれる。	43	35	5	4	89.7%	10.3%																					
	19 学校生活についての先生の指導は納得できる。	39	38	6	4	88.5%	11.5%																					
人権教育（道徳）	11 命や人権の大切さについての学習はわかりやすく役に立つ内容である。	36	39	8	4	86.2%	23.8%	88.5%	16.5%	17 学校は、生命を大切にする心や人権を尊重する態度を育てようとしている。	35	31	5	0	90.4%	6.8%	90.4%	6.8%	5 道徳教育は、年間計画に基づき、継続して行っている。	7	16	18	3	52.3%	47.7%	71.6%	28.4%	・昨年に続き、3属性共に比較的高い肯定率となっており、わずかではあるが向上もしている。継続して人権教育に取り組み、人権尊重の意識については一定の水準を超えていると判断することができる。特別の教科「道徳」の内容の充実を図り、本校の生徒に合わせた人権教育を計画していく。 ・教員の項目5の肯定率が著しく低い。項目9の肯定率の高さを考えると、個々の教員の人権意識は高いが組織としての取り組みを弱いと感じているということか。
	12 社会のルールについての学習はわかりやすく役に立つ内容である。	43	36	7	1	90.8%	9.2%												9 教員は生徒が命の大切さや人権尊重の態度を身につけるよう配慮している。	19	21	4	0	90.9%	9.1%			
性に関する指導	13 性についての学習は、わかりやすい。	34	36	10	7	83.9%	16.1%	83.9%	16.1%	19 性に関する指導は、段階を追って計画的に実施されている。	26	33	5	1	80.8%	8.2%	80.8%	8.2%	3 性に関する指導は、系統的・計画的に行われている。	20	21	1	2	93.2%	6.8%	93.2%	6.8%	・3属性共に比較的高い肯定率となっている。ただし、生徒と教員の間で肯定率に差が見られる。設問内容によってできる差であると考えられる。引き続き、系統的・計画的に行い、学校組織として性に関する指導取り組んでいく。
個別の支援										22 学校は個別の指導計画・教育支援計画について、機会を設けて説明をしている。	43	28	1	0	97.3%	1.4%	95.3%	3.5%	18 支援計画・指導計画はニーズを踏まえ作成し、保護者に開示・説明している。	23	18	2	1	93.2%	6.8%	93.2%	6.8%	・保護者・教員共に非常に高い肯定率となっている。昨年度から引き続き、地域支援部による個別の指導計画・支援計画についての研修や啓発により教員の意識が高まっている可能性もあり、今後も維持をしていきたい。また、懇談等での担任からの丁寧な説明がされていることが保護者の肯定率の高さにつながっているとも思われる。
										23 個別の指導計画・教育支援計画は、本人・保護者のニーズを踏まえ作成されている。	40	28	4	0	93.2%	5.5%											
生徒評価										4 通知表は、子どもの学習の達成度を適切に評価できるように工夫されている。	38	31	3	0	94.5%	4.1%	94.5%	4.1%	25 教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている。	9	25	6	4	77.3%	22.7%	77.3%	22.7%	・保護者では高い肯定率となっており、生徒評価が適切に行われていると理解をいただいている。 ・教員の肯定率が低い。来年度は新シラバスの試行期間となることから計画的に評価を運用できるようにする。
評価ジャンル	生徒	1	2	3	4	肯定	否定	肯定	否定	保護者	1	2	3	4	肯定	否定	肯定	否定	教員	1	2	3	4	肯定	否定	肯定	否定	結果と考察
危機管理	17 地震や火災などの学習はわかりやすい。	37	40	8	2	88.5%	11.5%	88.5%	11.5%	9 地震や台風などの場合の対応について、子どもや保護者に周知されている。	49	19	4	0	93.2%	5.5%	91.8%	5.5%	21 災害等に対して迅速かつ適切な対処ができるよう、防災計画が整備されている。	22	19	3	0	93.2%	6.8%	89.8%	10.2%	・いずれの属性においても80%を超える肯定率となっている。生徒は項目の内容の変更があるので単純には比較できないが、肯定率がやや減少している。保護者の項目20が8パーセント肯定率が減少していることが気になる点である。教員の項目21では肯定率の向上が見られる。訓練ごとに教職員の意見を防災担当が広く取り入れていることが要因であると考えられる。
										20 学校では、子どもに関するプライバシーが守られている。	41	25	4	0	90.4%	5.4%			19 生徒の個人情報に関する管理システムが周知されている。	17	21	6	0	86.4%	13.6%			
家庭との相互理解										2 学校は教育活動全般について、子どもや保護者の願いによく応えている。	29	41	2	0	95.8%	2.2%	91.6%	5.9%									・ジャンルごとの肯定率が5パーセント向上している。項目ごとにみると10、14、15の肯定率の向上が特に大きい。開かれた学校づくりを目標とする上で、参考となる数字と思われる。 ・行事への来校者数の増加を考えるとそれぞれの学校行事参観への周知がなされていると考えられる。今年度はとりかいンピックを企業にも公開するなど保護者に限らず本校との関係機関すべてに理解を求めていく。 ・参観設定をしていない行事についても内容の説明が保護者に丁寧にされていることで保護者との相互理解が深まっていると考えられる。
										7 学校が保護者に出す文書・事務連絡等がわかりやすい。	37	30	4	1	91.8%	6.8%											
										8 学校は、保護者の子どものことについての悩みや相談に適切に応じてくれる。	38	25	6	0	86.3%	8.2%											
										10 学校は、教育方針をわかりやすく伝えている。	35	36	1	0	97.3%	1.4%											
										14 学校は、保護者が授業を参観する機会を設けている。	50	20	1	0	95.9%	1.4%											
										15 学校の授業参観や学校行事に積極的に参加している。	29	31	9	2	82.2%	15.1%											
情報発信 地域連携										3 学習の内容・学校生活の様子を懇談や連絡帳等によって、知ることができる。	38	31	2	0	94.5%	2.7%	82.2%	12.0%	16 情報提供の手段として、学校のホームページが活用されている。	11	24	8	1	79.5%	20.5%	80.7%	19.4%	・保護者は3パーセント以内の向上、減少が見られるが、ほぼ昨年度とかわらない。 ・教員は前回と比較すると項目16の肯定率が9パーセント減少している。客観的な意見としての数値ととらえるか、本校の教員の立場としてとらえているかの確認が必要ではないか。
										11 学校のホームページはわかりやすい。	20	39	8	0	80.8%	10.9%			17 教育活動に必要な情報について、生徒・保護者や地域への周知に努めている。	10	26	7	1	81.8%	18.2%			
										12 学校以外の相談機関の情報を学校から入手できる。	16	35	17	0	69.9%	23.3%											
										16 学校は、保護者や地域の人たちから意見を聞く機会を持っている。	19	42	8	0	83.6%	11.0%											
交流及び共同学習										25 学校は子どもが地域や企業、他の学校など社会と交流する機会を設けている。	35	31	5	0	90.4%	6.8%	90.4%	6.8%	15 学校は、地域の行事参加等の機会を設け、地域との連携に取り組んでいる。	11	24	8	1	79.5%	20.5%	79.5%	20.5%	・保護者の肯定率は微増 ・教員は昨年度まで設けていた学校間交流の質問を削除した。生徒会の地域への行事の周知、地域の行事に物販の取り組み等がわずかではあるが肯定率の向上に繋がったと考えられる。
学校組織																			20 いじめが起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができている。	22	20	2	0	95.5%	4.5%	76.4%	23.6%	・既存の項目から3項目減らし、残した4つの項目も内容を少し変えているので単純には比較はできないが、ジャンルとしての肯定率は6パーセント向上いている。 ・24と27については肯定率が減少している。 ・28については大幅に肯定率が向上している。経験の少ない教員へのサポートが意識されてきたと考えられるか、数値としては高くはないので継続して学校全体の課題とするべきである。
																			24 会議が教職員間の意思疎通や意見交換の場として有効に機能している。	9	21	10	4	68.2%	31.8%			
																			26 教職員は学校の運営や改善に役立つよう、積極的に意見や考えを発信している。	10	20	12	2	68.2%	31.8%			
																			27 教員がどんなことでも気軽に相談し合えるような職場の人間関係ができている。	9	24	8	3	75.0%	25.0%			
																			28 初任者等、経験の少ない教職員を学校全体で育成する体制が取れている。	6	17	16	5	75.0%	25.0%			
研修																			23 研修・研究に参加した成果を、他の教員に伝える機会が多く設けられている。	9	21	12	2	68.2%	31.8%	68.2%	31.8%	肯定率について、前回よりは高いが前々回よりは低い数値となった（75%→53.5%→68.25%）。職員会議後の伝達講習の実施等の効果で向上していると見られるが数値としては高くはないので改善が必要である。